機関誌　No.166　　立教 184 年 2 月 26 日

こてき

題字　西田 伊作 / 編集　少年会本部　鼓笛活動課 / 発行　少年会本部

▶▶▶　巻頭言　　少年会本部委員長　西田伊作

▶▶▶　立教 184 年鼓笛バンド責任者連絡会
鼓笛活動課長　宇惠善継

▶▶▶　特別企画　鼓笛お供演奏写真展

▶▶▶　境内地お供演奏スナップ写真展

▶▶▶　各地のたより　山口教区団団長　宗綱達哉

▶▶▶　鼓笛連絡板

巻頭言　少年会本部委員長　西田伊作

日頃は、鼓笛活動を通した少年会員の育成の上にご尽力をくださり誠にありがとうございます。特に昨年初旬より新型コロナウイルス感染拡大により、従来の鼓笛活動が中々難しい中で、どのように活動を進めていけばよいのかご苦心くださっていることと存じます。御指導くださる皆様方のお骨折りに対して心よりおねぎらい申し上げますとともに厚くお礼申し上げます。

昨年のこどもおぢばがえりが中止となり鼓笛行事もすべて中止となりました。そんな中、お供演奏を何とか行えないだろうかとの思いから、9月から11月にかけて「特別企画　鼓笛お供演奏」を開催させていただきました。お天気にも恵まれ、全7回すべてを南礼拝場前で行うことができました。子供を集めての十分な練習もできなかったでありましょうし、大勢での帰参も難しい状況の中であります。地域によって思いはあっても帰参できなかったところも多くあったと思います。そうした中、本番当日を迎えることができた子供たちは、親神様、教祖の御前で心のこもったすばらしい演奏を披露してくれました。親神様、教祖もさぞお喜び下されたことと思いますし、私は、今回のお供演奏を、すべての鼓笛隊員のお供演奏としてお受け取り下さっているに違いないと思っております。また、この間、真柱様、奥様、大亮様、布恵様にもお出ましいただきご覧いただくことができました。本当にありがたい機会となりました。

さて、先にも述べたように、新型コロナウイルス感染による活動への影響は計り知れないものがありますが、この状況はこの先もしばらくは続くのではないかと思います。そこで考えておかなければならないことは、活動するかしないかというような極論ではなく、今置かれている状況の中でどのような活動ができるかということを柔軟に考えて、行っていくということだと思います。大切なことは、鼓笛活動を通した少年会員の育成であり、将来のようぼくに育つための下地を作ることであります。そのために私たちは、今できることに全力で取り組ませていただきたいのであります。

また、先般、新しいこどもおぢばがえりソングを発表させていただきました。これまでは、こどもおぢばがえりにテーマを掲げて、それに沿ったテーマソングが作られてきましたが、今回は、こどもおぢばがえりそのものをイメージした新しいこどもおぢばがえりソング「ありがとう！ 夏のおぢば」を作らせていただきました。今回のこどもおぢばがえりソングも鼓笛活動で生かしていただけるよう編成しておりますが、今のような状況の中でも活用していただきやすいよう各所に工夫を施しております。今後の鼓笛活動の上にご活用いただければと思います。

本年の鼓笛活動も難しい状況の続く中ですが、皆様のお力添えをいただいて一手一つに取り組ませていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

立教 184 年鼓笛バンド責任者連絡会

「鼓笛行事について」　鼓笛活動課長 宇惠善継

日頃は鼓笛活動を通して少年会員の育成にご尽力くださり誠に有難うございます。

昨年は、コロナ感染拡大の為、一年を通して予定していた行事や活動をやむ無く中止をしたり、延期や縮小するなどの対応をせざるをえない状況が続きました。特に、こどもおぢばがえりが中止となったことは、ここにお集まりの皆様にとって大きな衝撃ではなかったかと想像させていただきます。

子供たちはおぢばに帰り、お供演奏、オンパレードに出演することを活動の目標として練習に励んでいたと思いますので複雑な心境になったのではないでしょうか。私たち、本部鼓笛スタッフも同じ思いでありました。コロナ禍の中、発表の場を失った子供たちの為、どうにかおぢばで鼓笛お供演奏が開催できないか検討を重ねました。色々な本部関係部署や憩の家など、多くの方々のご協力をいただき 9 月～ 11 月までの期間で「特別企画　鼓笛お供演奏」を開催することができました。また既に、「境内地お供演奏」という 1 年を通して神殿前でお供演奏ができるという企画がございますが、あまりご存知でない方も多いようでありましたので、こちらも活用していただき、個々の隊でもパレードしていただけるよう、この度の「特別企画　鼓笛お供演奏」に合わせて、改めて広くご案内させていただきました。

「特別企画　鼓笛お供演奏」では、63 団体　少年会員 798 名　育成 719 名　計 1517 名の参加をいただき、「境内地お供演奏」では、9 団体　少年会員 259 名　育成 177 名　計 436 名の参加でした。

南礼拝場前でのお供演奏終了後、少年会員と育成会員との喜びの涙を何度も見させていただきました。中学 3 年生にとっては少年会員最後のお供演奏となり、中には隊を代表して遠方から参加してくれる隊員の姿もありました。参加した隊の育成会員から感謝の言葉を多く聞かせて頂き、本部鼓笛スタッフの励みとなりました。また、移動することが難しい隊の中には、教区で発表の場を作っていただき「遠方からではあり

ますが、お供演奏をさせていただきます。」との声を頂きました。また、境内地お供演奏では、黒門跡から南礼拝場前までパレードし、親神様、教祖の御前で改めて演奏演技を披露していただきました。

その中、秋季大祭で内統領宮森先生の講話を聞かせて頂きました。みちのともから一部、抜粋して読ませていただきます。

> これまで例年の諸行事を例年通り行うことだけで、務めを果たしていると錯覚していたのではないか、という思いもするのであります。決まったことを決まったように行うことにも努力が必要であり、苦労もありますが、それだけで事足りていたと勘違いしてはいなかったでしょうか。たとえば、こどもおぢばがえりは昭和28（1953）年、おやさとやかた建設に伏せ込む大人たちが、「道の次代を担う子供たちに、たとえ一荷の土でも運ばせてやりたい」という熱い思いから提唱された「こどもひのきしん」に始まるのであります。昭和29年には「おぢばがえりこどもひのきしん」、そして昭和31年の教祖70年祭の年には、名称を「こどもおぢばがえり」に変更し、土持ちひのきしんに「おやさとやかた行事」や「おたのしみ行事」を加えて今日まで続いてきているのであります。始まりは、「やりたい」「やらしてもらいたい」にあったのであります。ともすると、いまの私たちは「例年のことだから」という感じになってはいなかったでしょうか。いまの私たちが行っている諸行事は、その多くが先人・先輩たちが、やむにやまれぬ気持ちから、どうすればよかろうかと思案を重ねてつくり出してきたものばかりであります。それが、時が経ち、人が入れ替わりする間に、「やりたい」ものから「やらねばならない」ものへと気持ちが変わっていってはしないかを検証するときだと、コロナは教えているのかもしれません。「やらねばならない」「あらねばならない」では、勇み心が生まれてこないような気がします。コロナの禍は「やらねばならない」「かくあらねばならない」から抜け出して、一人ひとりが自分で「いまの私には何ができるのか」を

考えるようにと示唆しているような気がするのであります。
とお話しくださいました。

このお話を聞かせて頂いてこの度の「特別企画　鼓笛お供演奏」を計画、運営する上で、少年会の本来の目的でもある、子供たちの為に「喜ばさずには帰されん」の気持ちで精一杯務めることの大切さを改めて感じさせていただきました。また、実際に動いて下さる本部鼓笛スタッフや、それぞれの隊で鼓笛活動に携わって下さる皆様の真実に胸を打たれました。たとえ、人や楽器が揃わなくても、違う隊の子供たちが一手一つになって、お供演奏をする姿を、殿内から見させていただき、また、この場に帰って来ることができなかった隊の思いも一緒に込められているように感じ本当に感激させていただきました。開催期間中には真柱様、奥様、大亮様、布恵様もご覧いただき、お喜び下さいました。立教 180 年少年会年頭幹部会の真柱様のお話では、

子供の頃に習い覚えたことは、大人になっても忘れにくく、どこか癖のようになって残るものであります。彼らが大人になったとき、少年会で習い覚えたことが心の糧になって何を見ても嬉しい、何を聞いてもありがたいと、与えられた姿の中に喜びを見つけていける人に成人できるよう、心を掛けて育て導いていただきたいと思うのであります。

とお話くだされ、更には、

「少年会員のちかいは、ひながたを辿る私たちがいつも心がけておくべきことを、子供にも分かりやすく表したものであります。そしてそのちかいは、「立派なよふぼくに育ちます」で結ばれています。将来よふぼくに育つことを目標に、良い土壌を作り、水分や養分を施しながら、出てきた芽を大切に育て、手入れして立派な木にすることが、天理教少年会の務めであります。」

とお話くださいました。

時代が変わり、周りの状況が変わっていく中で、どのように丹精するか、育成者一人一人が今一度、その目標・つとめを再確認し、今後も鼓笛活動を通して将来立派なようぼくへと成人していただけるよう少年会活動をすすめていただきたいと願っています。

次に、本年立教 184 年こどもおぢばがえりを 7 月 27 日～ 8 月 5 日の 10 日間で開催することが、年頭幹部会で発表されました。こどもおぢばがえりソングとして、「ありがとう！　夏のおぢば」が発表されました。本年のこどもおぢばがえりはどのような形になるか、検討中ではありますが、お供演奏が開催できるようになった時には、皆様とおぢばにおいて一緒に演奏・演技できますことを願っております。 コロナ禍で、地域によっては集まっての練習が困難な隊もあると思いますが、それぞれの隊で工夫しながら少年会常時活動としての鼓笛活動を続けていただきたいと思います。今回コロナ禍であるということから思うように集まっての練習が難しい現状にあります。そうした上から、各パート譜に「ありがとう！　夏のおぢば」の合奏動画の QR コードを添付しておりますので、練習方法の一つとしてご活用していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

鼓笛バンド指導者研修会について説明いたします。鼓笛バンド指導者研修会は、お道の鼓笛活動を通して、子供たちに信仰の喜びを伝え、将来立派なようぼくに育つための基礎づくりをするという少年会活動の目的に沿って進められています。

少年会員を卒業してからも、引き続き育成の立場として鼓笛活動に携わっていただけるよう毎年「鼓笛バンド指導者研修会」を 3 月 24 日～ 27 日に開催しています。鼓笛お供演奏の習得をはじめ、各コース、クラスに応じた技術を研鑽すると共に、縦の伝道に携わる育成会員としてのあり方や心構えを学ぶことを目的として行っています。

しかし、今年の研修会は、新型コロナ感染症拡大の為、例年通りの日程で開催することが、難しい状況にあります。三密を避け、時間と人数に制限を持たなければならない為、内容を大幅に変更し、鼓笛体験コース以外については、対象者を「新高校１年生、２年生」と限定して開催させていただきます。このおぢばでの研修会を通して、受講生同士の懇親を深め、育成スタッフとしての励みにしていただきたいと思います。

今回の研修会については、対象を新高校１年生、２年生に限定させていただきます。昨年この研修会がコロナのため中止となり、受講できなかったということもありますので、受講対象者を新高校１年生、２年生とさせていただきました。対象者以外の育成の方々には、受講ができないことから、研修会で勉強していただく内容を３月 27 日より少年会本部ホームページや鼓笛公式 LINE から限定公開させていただきます。また、この動画については、お供演奏曲目「ありがとう！夏のおぢば」を細かく各パート別に説明しておりますので、研修会に参加できない先生方はそれをみて指導方法など勉強していただければと思います。また今回から、新たにモンキータンバリンの動画を作成いたしました。小さいお子さんにも一人でも多くお供演奏に参加してもらえるよう見て、楽しく練習できるように動画を作成しております。鼓笛隊への入隊の一助として活用していただければと思います。モンキータンバリンの楽譜に QR コードを添付しておりますのでご活用ください。また、27 日の各パート別の動画配信に合わせてモンキータンバリンの配信もさせていただきます。また今回から、お供演奏曲目にはフルートパートはございません。各隊でフルートを演奏される場合は、ファイフ１のパートを演奏してください。鼓笛活動課の LINE についてですが、今までは各隊一名のみの登録でしたが、これからは各隊何名でも登録が可能となりまして、各隊育成会員の方にもお伝えください。

この一年、鼓笛活動の上にお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。

特別企画 鼓笛お供演奏写真展

境内地お供演奏スナップ写真展

立教 183 年　10 月 11 日　敷島団南和鼓笛バンド

（少年会員：13 名　育成会員：20 名）

立教 183 年　10 月 24 日　髙安団泉東鼓笛隊　（少年会員：34 名　育成会員：19 名）

立教 183 年　10 月 25 日　本島団鼓笛隊　（少年会員：21 名　育成会員：23 名）

立教 183 年　10 月 31 日　郡山団郡山鼓笛隊　（少年会員：53 名　育成会員：21 名）

立教 183 年　11 月 22 日　高安団さんだん鼓笛隊　（少年会員：26 名　育成会員：7 名）

立教 183 年　11 月 23 日　大原団鼓笛隊　（少年会員：31 名　育成会員：8 名）

立教 183 年　11 月 29 日　五條団共成鼓笛隊　（少年会員：21 名　育成会員：20 名）

立教183年　11月29日　池田団池田鼓笛隊　（少年会員：29名　育成会員：19名）

立教183年　12月13日　河原町団KEISHIN fife & drum corps “Yellow Jackets”

（少年会員：31名　育成会員：40名）

各地のたより

山口教区団団長　宗綱達哉

昨年山口教区団では「第１回教区団総会」の準備を進めていましたが、県下でも３月に初の陽性者を確認。以後県内も徐々に感染が拡大し、社会生活も制約され教会活動もままならない中、教区団ではこの総会を、各々の少年会活動を繋ぎ留める一助になれば！との思いから開催の方向を諦めず、相談を重ねその対応や対策など種々手を尽くしました。しかし、本番１ヵ月前、陽性者確認の勢いは治まらず、止む無く１年の「延期」を決定致しました。

当初プログラムの中では、初の「鼓笛フェスタ」を企画。管内の既存鼓笛隊の新たな発表の場の構築と、常時活動としての鼓笛の魅力を広く啓蒙（けいもう）すべく、当日は西田委員長・宇惠鼓笛活動課長・山瀬地域活動課長を審査員として招聘（しょうへい）する計画でした。そんな中「立教 183 年こどもおぢばがえり」の中止が発表。せめて頑張ってきた子供たちにどうでも発表の場を！との思いは一層強まり、各鼓笛隊でもその思いを共有。３密回避で教会行事すら難しい中、その対応を工夫し練習を重ねて下さいっていましたが、結果は延期せざる負えず、委員も含め一様に意気消沈でした。

そんな中せめて合同で「お供演奏」だけでもできないか？との声が上がり、奇しくもその日おぢばでは「特別企画　鼓笛お供演奏」が開催。本会の親心を賜りまして、急遽山口県からの「リモート参加」を承諾いただきました。

１カ月足らずの準備期間、鼓笛活動課員や団委員諸氏、各隊スタッフの方々のご尽力で無事に「リモート参加」を決行できました。当日、山口会場のスクリーンには本部神殿前が映し出され、おぢばの司会に合わせ共に遥拝。リモート参加の各鼓笛隊名も同様にアナウンス。映像の指揮者に合わせ凛とした雰囲気の中、堂々と演奏演技をする子供たちの姿に、リモートながらも「おぢばの理」を頂戴できた事に、只々喜びと感謝の念で一杯になりました。

動画はこちら

私は今回、これまで経験した事のない未曾有（みぞう）の状況の中で、どれが正解でどれが不正解かを、１度立ち止まり考える事が大切な今だとは思いますが、逆に既成事実や固定観念が一つの理由に、次代に信仰の喜びを伝える事々が滞ってはならない事を切に感じ、こんな時だからこそ手を抜かず、柔軟な発想や思案の中、新たな活動形態を模索する事が大切だなと、改めて感じさせていただく貴重な機会となりました。ありがとうございました。

鼓笛連絡板

鼓笛バンド指導者研修会について

開催日　令和３年３月 25 日（木）
　　鼓笛体験、ドラムメジャー、低年齢層指導、カラーガード
　　令和３年３月 27 日（土）
　　プレーイング、マーチング、バトントワリング
対　象　鼓笛体験コース：新高校３年生以上
　　その他のコース、クラス：新高校１年生、２年生のみ
練習場　おやさとやかた南棟（天理大学）他
受講費　2,000 円（前納金 1,000 円含）
申し込み　令和３年２月１日～３月 11 日（必着）、所定の申込書に前納金 1,000 円を添えて少年会本部会計課宛にお申し込みください。
　　尚、３月 11 日以降の申し込みは、一切受付致しませんのでご了承ください。

境内地お供演奏について

黒門跡からパレードし、神殿前でお供演奏ができます。「境内地お供演奏願書」に必要事項を記入し、団長印を捺印の上、少年会本部鼓笛活動課まで提出してください。一年中募集していますので多くの鼓笛隊の演奏、演技を心よりお待ちしております！

鼓笛に関して、知りたい情報、機関紙こてきに投稿したい事などありましたら、少年会本部鼓笛活動課までご連絡ください！

〒 632-8688　天理郵便局私書箱 58 号
E-mail　skoteki@tenrikyo.or.jp
TEL　0743-63-1954
FAX　0743-63-4625

編集後記

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の為、鼓笛活動がままならない状況の中、「特別企画　鼓笛お供演奏」、「境内地お供演奏」と行事をさせていただきました。「大好きな　おぢばへ」を一手一つに演奏する隊員達を見て、こどもおぢばがえりの懐かしい思い出が浮かび、とても感動しました。まだまだ油断できない状況の中、鼓笛で頑張る子供たちを精一杯サポートできるように、私も頑張りたいと思います。(J.T)